



## 「完成年度」を迎えた社会教育課程

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 油川, 英明 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9168">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9168</a>

## 「完成年度」を迎えた社会教育課程

社会教育課程が発足して3年目、1992年10月、社会教育分野・心理学グループの担当教官として、「障害児教育」を専門とされる安井友康先生が赴任され、「社会教育」、「文化人類学」のお二人の先生とともに、予定されていた社会教育課程専任の担当教官が揃われた。この機会に、社会教育課程運営委員会も専任の3名の教官を中心に、直接この課程の学生を担当している教官(中島、越山、油川各教官)を含めた6名で構成されることとなった。これで当初の年次計画が完了したことになり、概算要求に関わっては「社会教育課程」の「完成年度」を迎えたことになる。但し、これは形態上の基礎ができたということで、教育と研究の条件及び内容の多くは、これから整備・充実を計っていかなければならない。いよいよスタートラインについてという感がある。社会教育課程の充実をはかるためには、やはり「全学支援方式」が前提で、教官各位のご協力をこれまで以上に期待している次第である。特に、学生は既存の教員養成課程との「区分」には敏感で、かつ課程としての「独自性」を強く望んでいる。このような意識は、教員養成課程との学生数の多少にも因るが、独自の学問領域の要求が強いためであると思われる。古い言葉に「和して同せず」という教えがあるが、両課程の間でこれを如何に具現するかということであろう。

社会教育課程としての新しい領域づくりは、日々の積み重ねによるわけであるが、これは課程の発足当初から各分野・グループで独創的になされてきている。本年度も数々の企画が、講義の中であるいは学生の自主的活動の中で実施されてきた。その中の幾つかを列記すると、'92年6月新入生合宿研修(大雪自然教育研究施設、昨年に引き続き東川町の山下由紀夫氏の特別講演と大雪山ネーチャーガイドの塩谷秀和氏による旭岳の植生・環境観察)、8月江別郷土館での遺跡発掘調査への協力活動、札幌青少年科学館での来館者案内の補助活動、9月空知郷土研究会(社会科学分野他)の幌加内調査活動(報告書の作成)、滝川での自主ゼミ(社会教育)「学校5日制を考える」、11月北海道学芸員ブロック会議参加・講習受講(社会科学分野)、'93年1月親子劇場参加活動、三世代交流会参加、3月在来生宿泊研修(札幌滝野・青少年の家)などとなっている。この他にも、地域におけるサッカー少年団の指導やボランティア活動などが見られる。また、各分野のゼミにも社会教育課程としての特徴が段々と定着してきている。

今年度はさらに、社会教育課程として多くの協力を得ながら、教育実習と就職活動に動きだした年である。教育実習は3年生が10名ほど、11月の1週間、岩見沢市内の中学校において教育の現場を直接体験する機会をもった。受け入れ側の先生方も「新課程」ということで、かなり注目されておられ、特段の配慮を頂いた。ただ、実習生はむしろ厳しい評価があるものと自らを律して、来年の2週間の実習に臨むべきであろう。反省会等での意見をお聞きして、実習の実施前に社会教育課程としての事前指導の必要性が感じられた。

第一期の卒業生を来年にひかえ、就職対策委員会及び教官有志の方々が道内外の就職先を打診して頂いていることは感謝の念に絶えない。特に、昨今の「不況旋風」は気がもめることである。このような気持ちは、新しい課程を抱えた実感でもある。

就職対策に関する講演会は、10月小山忠弘氏(空知教育局)「社会教育の展望」、11月畑和孝氏(栗山町教委)「公機関の社会体育」、12月菅野暢昭氏(HBC・札幌)「マスコミを目指す者へ」、'93年1月杉原理美氏(岩見沢市役所)「公務員について」、2月青山俊生氏(標茶町郷土館)「学芸員とは」と、後期は毎月のように実施されたほどである。学生には、各々の進路を考える良い機会となったことは間違いない。

最後に、多くの研究室のご協力により、社会教育課程の「案内」パンフレットを作成することができたことをご報告する。これは、受験生に課程の内容を知ってもらうことと、学生の就職先への課程紹介を考えたものである。ご活用頂きたく、お願い申し上げる次第である。

(社会教育課程運営委員長 油川 英明)